

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	都市型ホテル（スタッフ）	・大きなイベント等が多く予定されていることもあり、予約は非常に伸びている。また、イベント開催日や休みの日程ありきで予約が動いていることから、宿泊価格によって動きが弱まることもない。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・2か月先まで予約が入っている。
	○	スーパー（経営者）	・期待もあるが、消防署への納品が増えるため、良くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・5月に限ってはゴールデンウィークで落ち込むとみているが、気温が高くなるにつれ飲料等の売上が増える見通しである。重油価格の高騰等で再度価格が上昇することもあるだろうが、今のところはそこまで影響しないとみている。
	○	一般レストラン（経営者）	・毎年、夏に向かっては現状より良くなる。現在の世界情勢や消費税の動向によっては、消費控えが出る。
	○	一般レストラン（経営者）	・期待感も込めてではあるが、ゴールデンウィークも含めて人の動きが増えるため、幾らか良くなる。
	○	観光型旅館（経営者）	・現状、6～7月の予約の進捗は前年並みで推移している。ガソリン価格も抑えられているため、国内旅行について大きく減少するような動きはない。航空運賃等が5月から上昇するようなので、特に夏休みの旅行先を海外から国内に振り替える客も一部発生するとみており、国内需要はやや増加する。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・いまだ物価高ではあるものの、ある程度、客も慣れてきている。5月はゴールデンウィークや市内で4月同様に大きなイベント等が開催される。ゴールデンウィーク前半は、客室が満室状態である。しかも、料金的にもかなりの高額で販売しているが、それにもかかわらず、予約が入っている。
	○	タクシー（経営者）	・中東情勢や物価高が危惧されるが、少しずつでも良くなっていくのではないかとみている。
	○	通信会社（社員）	・今期も引き続きサービス提供エリア拡張を予定しているため、単純な加入者数や売上の増加という点では上昇が見込まれる。
	○	遊園地（職員）	・パブリシティの獲得やイベントの開催等、積極的な集客施策や情報発信を行い、より多くの客の来園を期待している。
	□	商店街（代表者）	・状況が好転することを望むだけである。
	□	商店街（代表者）	・新学期が当店の商売ではピークである。昔からの中心商店街だが、今年に入り、人の流れがかなり変わって、今では本当に数えるほどしか人が歩いておらず、心配である。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	・照明器具やOA機器等の在庫確保が厳しくなっており、当然、価格上昇も含めて販売側も厳しい状況は続くともみている。補助金制度等もあるなかで、本当に必要としているところに納品できない状況が出てきそうな気配もある。
	□	スーパー（店長）	・物価高、原油関係の見通しが立たないと、財布のひもは緩まない。減税政策などが明確になるまで、セール日に集中した買い回りになると予想している。
	□	コンビニ（経営者）	・中東情勢の影響が長引いており、なかなか厳しい。当店も厳しい状態で、売上の回復は難しい。
	□	コンビニ（経営者）	・7月は繁忙期のため期待したいが、ガソリンや諸物価の上昇、たばこ税等の上昇が今後も続けば、来客数や客単価に影響が出てくる。客は安価な物や増量セールの商材は購入してくれるが、それ以外は節約志向になっているため、余り変わらない。
	□	コンビニ（店長）	・今月は株価の動きは良いようだが、現場や日常の特別な変化はない。今までどおり、悪いままの状況が続いていくとみている。
	□	家電量販店（店長）	・世界情勢など不安が大きい。
□	自動車備品販売店（従業員）	・数か月先の金利上昇や物価高騰を考えると、節約志向は継続し、今と変わらない。	
□	都市型ホテル（スタッフ）	・現状の宿泊予約数を見ると、それほど入っていない。当地域の宿泊料金が高騰しているせいや、リードタイムがどんどん短くなっている。	

	□	タクシー運転手	・年末から3月にかけて、新人が3人増えた。前月、前々月よりも幾らか売上が増えてきているが、まだ人手が足りない。
	□	ゴルフ場（副支配人）	・世界情勢が不安定で物価が下がる様子がない。また、来場者の2割を70歳以上の客が占めているため、物価が上昇しても収入は増えない層なので、来場回数が減少する。
	□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・物価やエネルギー価格の上昇など不安定な要素があるものの、今のところは余り影響を受けていない。遠出するより近くで安価に楽しめるレジャーとして選ばれている。
	▲	百貨店（経理担当）	・中東情勢の安定がみえないなか、石油関連の燃料費、原材料や商材の値上げにつながって物価高となる。客は必要な物以外の購買には慎重で消極的な消費傾向にある。
	▲	百貨店（営業担当）	・中東情勢がどのようになるか今のところ分からない。長期化するかもしれない、その場合は、現状でも値上げが多いところに、更に物価が上がり、景気はやや厳しくなる。
	▲	百貨店（店長）	・今後のメーカーからの商品供給に、一部では不透明な状況が出てきているため、今後の売上への影響が懸念される。
	▲	スーパー（経営者）	・ゴールデンウィークの客の動向に注目しているものの、安近短に動きそうである。
	▲	スーパー（企画担当）	・中東情勢の影響が徐々に出てくると考えている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・物価上昇に対して、可処分所得の増加が追い付いていない。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・新車販売難に加え、オイルなどメンテナンス部品の欠品などもあり、整備売上にも影響が出てくるおそれがある。
	▲	その他専門店〔酒〕（店長）	・売上はカバーできると考えるが、内容は変わってきている。一段と物価高が厳しくなっており、賃上げで反映されればよいが、各種ローンや様々な保険等も値上がりしている。酒の値段が高くて堅調に推移していけばよいが、容量等を非常に厳しくみる客もいるため、慎重に対応していかなないと厳しい。資材の入荷等についても危惧しており、売上が落ちる可能性もある。
	▲	高級レストラン（経営者）	・世界的な政情不安から、物価高騰や物資の入荷不足等が止まらず、明るい兆しさえみえない。
	▲	スナック（経営者）	・いろいろな物の価格が更に上がりそうで、仕入れが厳しくなるのは確実である。しかし、値上げをしてそのまま客に受け入れてもらえる状況ではないため、景気はやや悪くなる。
	▲	スナック（経営者）	・今回の歓送迎会は、前半ほとんど動きがなく、後半になってようやく少しずつ動いたので、大分遅いスタートになってしまった。それももう落ち着きつつあり、通常営業に戻るため、団体客の来店が少なくなることから、売上にも確実に影響してくる。
	▲	旅行代理店（副支店長）	・原油供給の不安定さや物価上昇による旅行控えが考えられ、更に受注が減少する。インバウンドのオーバーツーリズムの影響もあり、国内観光地の混雑や業界施設の高騰を受けて、日本人客の利用は冷え込むとみている。
	▲	通信会社（社員）	・中東情勢等の影響により、販売単価が上がり続けている。
	▲	ゴルフ場（経営者）	・塗料がない塗装業、ボンドがない建具業など、原料不足で休業せざるを得ない町工場等の情報を耳にする。それらがボディブローのように影響しないことを祈るばかりである。
	×	商店街（代表者）	・今後の景気に良くなる要因がみえず、閉塞感がある。
	×	コンビニ（経営者）	・この先も悪くなるとみている。
	×	乗用車販売店（経営者）	・エンジンオイル、ブレーキオイル、シンナーが出荷停止になっている。
	×	乗用車販売店（総務担当）	・中東情勢の影響により、悪くなる。
	×	観光名所（職員）	・国内客の旅行控えがある。中東情勢の緊迫化が続く限り、物価高に対する儉約は、観光事業としては大打撃である。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、良くなる。
	○	建設業（経営者）	・工事の問合せが少しずつ出てきているため、受注につながることを期待している。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・特注品の受注が多く、しばらくはその対応で多忙である。
	▲	食料品製造業（製造担当）	・出張販売などで売上を立てるが、量販店の減少分には追い付かない。

	▲	食料品製造業（総務担当）	・原料等の高騰によりやや悪くなる。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・原材料価格の高騰が続いている。高騰だけでなく、数量制限が掛かる材料も増えているため、生産ができなくなることが心配である。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	・6月からの値上げ要請がかなり来ている。それも含めて材料の入荷が非常に困難になっている。下手をすると完全に操業ができなくなる可能性も考えられるため、景気は悪くなる。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・売れているのは金製品が中心である。特に、将来の資産価値を見込んでネックレス等では金製品が売れているものの、その他の製品の動きは鈍い。小売店は来店客の減少で苦戦している。
	▲	金融業（調査担当）	・中東情勢の緊迫化の影響により、石油製品など原材料等の確保や価格上昇を懸念する企業が増加しており、マインドが大幅に悪化する見通しである。非製造業では、ゴールデンウィークを含めた春の行楽シーズンへの期待はあるが、製造業の関連企業では取引の減少が予想されるなど、マインドの悪化を予想している。
	▲	金融業（経営企画担当）	・中東情勢の影響の長期化が懸念され、原材料不足や更なる物価高騰により、景況は悪化すると考えている。
	▲	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・中東情勢の不安から、事務用消耗品関連でも値上げが始まっている。売上が前年並みで推移しているなか、経費負担の増加は避けられず、利益圧縮につながると予想される。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連	◎	—	—
	○	—	—
(甲信越)	□	人材派遣会社（営業担当）	・世界情勢の影響が、物価や建築関係など身近なところで発生していると実感している。
	□	職業安定所（職員）	・労働環境や労働条件をより良くしたいという求職者の意向から、求職活動が活発化している部分がうかがえる。一方、賃上げなどの対応から求人条件の改善がなかなか進まない状況も散見され、就職件数が直ちに増加する状況にはならない。
	▲	職業安定所（職員）	・中東情勢が日本経済に与える影響が、より一層不透明となっており、今後は日本企業の収益悪化等が懸念される。
	▲	民間職業紹介機関（経営者）	・目先の業務量はあるものの、円安、物価高、原油等の調達不安から、企業マインドの弱含みが続いている。
	×	—	—